

日本高等教育学会第27回大会
大会校 鎌倉女子大学

参加費
無料

— 初等中等教育と高等教育の接続 —

教育の連続性を考える

「公開シンポジウム」

2024 5/26 日
14:15~16:45

鎌倉女子大学オンライン配信

／ 申込期限 ／ 2024年5月24日(金) 18:00

現代は、VUCAの時代 (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) とも形容され、そのような先行きが不透明で予測困難な時代の高等教育は、普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身につけ、高い専門性をもとに自分自身で課題を設定して、解決していくことのできる人材の育成が期待されてきています。

一方、初等中等教育段階では、2020年代に入り、新学習指導要領が適用され始めました。この新学習指導要領においては、児童・生徒は学校教育の中で身につけるべき力として「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」を育成することが重視され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が強調されています。このような新学習指導要領に基づく初等中等教育を経験した生徒を、2025年度から大学は受け入れることになります。

こうした近年の初等中等教育改革と高等教育改革の動向は、教育の連続性という観点から見た時、どのように理解していく必要があり、そこには現在どのような課題があるのでしょうか。初等中等教育の改革動向、一貫教育、大学の入試選抜、教学マネジメント等の側面から幅広く議論します。

講演

オンライン参加申込はコチラから▶

参加申込URL <https://x.gd/FAjIv>



高橋 洋平氏
(鎌倉市教育長)



小原 一仁氏
(学校法人玉川学園常務理事／
玉川大学学長／玉川学園副学園長)



村上 雅人氏
(情報・システム研究機構監事／
日本技術者連盟会長)



川嶋 太津夫氏
(大阪大学特任教授)



福井文威
(鎌倉女子大学教授、
第27回大会実行委員長)



鎌倉女子大学
鎌倉女子大学短期大学部

この公開シンポジウムは、日本高等教育学会第27回大会の一部として実施するものです。
詳細はこちらから <https://jaher-web.jp/conference/27/>

「公開シンポジウム」
教育の連続性
を考える
— 初等中等教育と高等教育の接続 —

2024
5/26 日
14:15~16:45

鎌倉女子大学オンライン配信

オンライン参加申込は
こちらから ▶



参加申込URL <https://x.gd/FAjIv>

講演者



高橋 洋平氏
(鎌倉市教育長)

2005年に文部科学省に入省し、教育研究に関する制度・予算などの政策立案・調整に携わってきた。高等教育局私学部私学助成課課長補佐、初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームサブリーダー、日本学術振興会サンフランシスコオフィスアドバイザー及びカリフォルニア大バークレー校客員研究員、福島県教育総務課長・企画調整課長などを歴任。文部科学省退職後、PwCコンサルティング合同会社で教育チームマネージャー。政府・教育委員会・海外・民間と様々な立場で公教育に関わってきた。2023年より鎌倉市教育長。



小原 一仁氏
(学校法人玉川学園常務理事／
玉川大学学長／
玉川学園副学園長)

Lynch School of Education, Boston Collegeにて学士号(教育学)、修士号(教育学)を取得。その後、Graduate School of Education and Information Studies, University of California, Los Angelesにて博士号(教育学)を取得。日本に帰国し、玉川大学学術研究所に助教として着任後、教育学部准教授、教授、学園教学部事務部長、教育学部副学部長、学部長を経て現職。現在は、全人教育とwell-rounded educationの理論的類似性に関する研究に取り組んでいる。主な著書として、『教育原理』(共著:玉川大学出版部, 2022)、『全人教育の歴史と展望』(共著:玉川大学出版部, 2021)、The Global Phenomenon of Family-Owned or Managed Universities (共著:Brill, 2019)、West Meets East: A Well-Rounded Education versus an Angular Education in Japan(単著:Espacio, Tiempo y Educación, 2018)など。学園教学部事務部長および副学部長、学部長時代に学内の高大連携の取り組みに接する機会を持つ。



村上 雅人氏
(情報・システム研究機構監事／
日本技術者連盟会長)

世界最強のバルク超伝導磁石の開発に成功し、日経BP賞、World Congress Superconductivity Awardなどを受賞、論文引用件数が世界のトップテンに。著書には、数学のなるほどシリーズをはじめとして、専門書は30冊を超える。教育関係の出版では「教職協働による大学改革の軌跡」(東信堂、2021)「大学をいかに経営するか」(飛翔舎、2023)などがある。芝浦工業大学の学長を2012年より9年間務め、大学改革に従事。文科省の「知識集約型社会を支える人材育成推進事業」の事業委員会委員長、「私立大学等改革総合支援事業」の副委員長を歴任。現在、岩手県のDXアドバイザーも務める。

モデレータ



川嶋 太津夫氏
(大阪大学特任教授)

名古屋大学大学院で教育社会学を専攻。名古屋大学教育学部助手を経て、1993年に神戸大学教育研究センターに助教授として赴任。神戸大学教育推進機構及び大学院国際協力研究科教授を経て現職。

現在:大阪大学学生・ライフサイクルサポートセンター特任教授(センター長)。独立行政法人大学改革支援・学位授与機構客員教授、国立大学協会入試委員会専門委員、第11期中央教育審議会大学分科会臨時委員などを歴任。現在の専攻分野は比較高等教育論。主な研究成果は、『初年次教育:歴史・理論・実践と世界的動向』、『大学改革の現在』、『大学のカリキュラム改革』、『進化する初年次教育』、『学習成果ハンドブック』、『50年目の「大学解体」 20年後の大学再生:高等教育政策をめぐる知の貧困を超えて』(いずれも共著)などがある。

司会



福井文威
(鎌倉女子大学教授、
第27回大会実行委員長)

東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。専門は高等教育政策論、アメリカ大学史。日本学術振興会特別研究員、政策研究大学院大学助教授、コロンビア大学ティーチャーズカレッジ フルブライト研究員などを経て現職。その他、内閣府科学技術政策フェロー、名古屋大学高等教育研究センター客員准教授などを歴任。主な著作として、『米国高等教育の拡大する個人寄付』(単著、東信堂、2018年、第17回日本NPO学会賞優秀賞、第8回日本教育社会学会奨励賞受賞)、Handbook of Higher Education in Japan (分担執筆、Amsterdam University Press、2021年)、『日本の寄付を科学する: 利他のアカデミア入門』(分担執筆、明石書店、2023年)などがある。